

専門学校読売自動車大学校

学校関係者評価 報告

「令和4年度」

令和5年9月1日

学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価

学校関係者評価は、卒業生・保護者・地域住民・企業役職員等の学校関係者を選任し、学校が実施した令和3年度における自己点検評価の結果に関する評価を行い、教育活動と学校運営の改善に向けた助言を行う。

なお、評価の観点は次の項目による。

- ・自己評価の内容が適切かどうか
- ・自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策等が適切であるかどうか
- ・学校の重点目標や具体的方策等が適切かどうか
- ・学校運営の改善に向けた実際の取組みが適切かどうか

2. 学校関係者評価委員会の実施

令和4年度の「自己評価報告書」を、学校関係者委員に事前に送付した上で委員会を開催し、ご意見・ご提案を頂いた。また、委員の皆様には基準項目毎に4段階で評価頂き、その結果も含め報告書としてまとめた。尚、第1回委員会においては昨年度の教育活動や学校運営についての評価と今後の課題の提起を行い、次回の第2回委員会では令和5年度の間評価と次年度への取り組み課題等の討議を行う。

<令和5年度 第1回> 開催日時：令和5年 7月14日（金）17：00～18：00

場 所：510教室

<令和5年度 第2回> 開催日時：令和5年 11月6日（月）17：00～18：00

場 所：510教室

3. 学校関係者評価委員会の出席者

① 学校関係者評価委員

- ・齋藤 義明：地域住民 亀戸二丁目町会 会長
- ・今井 一之：企業等 (株)関東マツダ
- ・矢田 泰久：卒業生 読売自動車大学校同窓会 会長
- ・蛭田 浩由：保護者 1級整備学科3年生

(敬称略・順不同)

② 学校側参加者

- ・松井 敏宏：理事長
- ・渡辺 宜男：校長
- ・中村 宏之：法人本部長
- ・岡島 毅：事務局長
- ・北村 眞一：校長補佐兼1級整備学科 学科長
- ・北島 鎮夫：自動車整備学科 学科長
- ・鈴木雄一郎：教務委員長

4. 学校関係者評価委員の意見・提案と評価平均点 (令和4年度 学校関係者評価)

基準1 教育理念 4.0 (前回 3.8←3.7←4.0)

- ・企業が求める人間性と技術力に対して試行錯誤しながらもやるべき項目を明確にされ、積極的に活動され大変良いことであると思う。また、特定整備技術講習を取り入れることにより即戦力になりうる育成が実施されている。
- ・教育理念が素晴らしいと思う。その教育理念を確実に実行できる授業としてください。
- ・BEVの導入は業界だけでなく、社会全体の課題になっていると思います。
但し、国際社会の流れも変化があり、EV化100%は当面ないと考えられる。

基準2 学校運営 4.0 (前回 3.5←4.0←4.0)

- ・就職率や国家試験の合格率の高い伝統校としての強みを継続しつつ、わかりやすい授業、就職指導と豊かな国際性をあらゆる機会を通してアピールしようとしている活動は大変良いことと思える。
- ・新入生確保が大変なようですが、総力を挙げて人材確保に努めて下さい。
- ・意見・改善点：2022年、2023年度の入学者数を拝見する限り、学生の確保は緊急性の高い課題と思います。業界も整備士の確保は緊急性の課題ですので、官民のサポートを仰ぎながら課題解決のご尽力をお願いします。

基準3 教育活動 3.8 (前回 3.5←4.0←3.7)

- ・変わりゆく国家資格制度を迎えるにあたり先生方の大変なご苦労があるものとさっしますが、企業と連携しながら確実な資格取得と実戦で有効なスキルのご指導をお願いいたします。
- ・新しい技術仕様の車が次々と生まれている。それに対応する教員も大変だと思います。
- ・教える側の向上が求められている事が感じられました。卒業生の代表として、更なるサポートできるような事がないかを検討させていただきます。

基準4 学修成果 3.5 (前回 3.5←3.3←3.3)

- ・国家資格取得に対しての結果は素晴らしい状況で今後も継続できますようご尽力下さいますようお願い致します。留学生の日本語能力不足については就職後も本人が大変な思いをするので今以上のご指導をお願いしたい。
- ・特別授業等でフォローしている姿勢は良いと思う。関連資格試験は車の整備とは全然違う事も含まれているので、全ての資格取らせるのは大変だと思が、それが将来本人の為には重要なことだとしてしっかり説明して、成果を上げてほしい。
- ・簡単な事ではない事は明確ですが、合格率100%と言うのは大きなマーケティングツールでもあり、事実の証明でもあります。主目的の整備士資格の合格率でなく、その他の資格の合格率も向上するとツールや照明として更なる効果を発揮できると思います。

基準5 学生支援 3.5 (前回 3.5←3.3←3.3)

- ・自動車整備士に関する職業理解を得る活動はとても重要なことであるので、講和等をする機会を更に広げて頂きたい。
- ・就職するまで面倒を見ている点は良いと思います。就職後の支援のことも課題に挙がっているが、そこまでやる学校は実際どの位あるのだろうか。
- ・小中学生向けのミニ四駆イベントの活動を見て、思い出しましたが、JALの搭乗時に航空機器の整備士のVTRが20-30分ほど流れておりました。JAL自体の宣伝であったとも取れますが、整備士としての目線で見ると、子供たちが将来の整備士を夢見るきっかけのVTRでもあるように見えました。

基準6 教育環境 4.0 (前回 3.8←4.0←4.0)

- ・教材関連につきましては、費用対効果を求められる事項ですが、優先順位をつけ確実な改善を実施しているものと思われる。
- ・改善項目は多くあると思いますが、毎年環境整備を行っている点は良いと思う。
- ・フェラーリディーラーではコーンズ名古屋がフェラーリ占有のアジア最大のサービスセンターを建設し、2023年より稼働しております。工場視察などはいくらでもサポートします。但しフェラーリは2世代くらい遅れた工場だと思います。

基準7 学生の受け入れ募集 3.5 (前回 3.0←3.7←2.7)

- ・学生募集については、学生から選ばれる活動を模索しながら、魅力あるOCにできますようご努力ください。弊社も出来る範囲で協力をさせて頂きたいと思っております。
- ・職人になりたいと思う人が少なくなっている時代でも、必要な資格です。この資格の魅力を発信して色々な募集の取り組みを続けてほしいです。
- ・出張などしているとコロナ禍は終わり、新しい世の中になったと感じます。保護者ではなく、入学を対象とした高校生などへはSNS上のマーケティング活動はパワフルなツールかと思います。読売理工学院で外注するなどを検討して正しいマーケティング活動がSNS上で実施される事を望みます。

基準8 財務 4.0 (前回 3.5←3.7←4.0)

- ・学生からの入学金や授業料を収支とするならば、学生の確保が課題となる。
- ・学校運営と同じコメントとさせていただきます。

基準9 法令等の遵守 4.0 (前回 3.8←3.7←4.0)

- ・特に問題ありません。
- ・コンプライアンス遵守などは教員や事務局の方は問題ないかと思います。コンプラや個人情報保護などの重要さをどのように学生へ理解させるかが課題ではないでしょうか？弊員も毎年コンプラ関連のeラーニング受講や宣言書の提出を求められます。

基準 10 社会貢献・地域貢献 3.5 (前回 3.3←4.0←3.7)

- ・社会貢献や地域貢献は重要な事項ではあるものの、無理せず出来ることをしっかりと行えばよいとおもいます。「特定整備主任者講習」「2級自動車整備技術講習(夜間)」「こども110番」
- ・授業や資格が試験目白押しの中、様々な活動をしているのは評価できると思う。
- ・地元(亀戸エリア?)の活動はスタートしていると拝読しました。この辺りの活動もSNSへの展開が広く拡散できるツールではないかと思います。ご検討をお願いします。

基準 11 国際交流 4.0 (前回 3.8←4.0←4.0)

- ・留学生の対応については、長い経験のある御校ですので各種ノウハウがあろうかとおもいますが、より実践的な日本語のコミュニケーションを身に着け社会に送りだしていただきたい。
- ・対面授業が始まれば自然にコミュニケーションがとれると思う。
- ・留学生の活躍は業界の需要課題だと思います。留学生を雇っている企業のサービスマネージャーに聞き取りをすると、やはり日本語でのコミュニケーション能力が問題となっているようです。一部の優秀な方の人数を増やす活動よりもレベルの底上げ的な活動が業界として求めていると感じます。

その他の意見等

- ・読売式教育メソッドに沿った人間力・基礎力・資格取得力に重点を置き、動向を敏感に察知し、時代に沿った業界に順応でき活躍出来る人物の育成をお願いしたい。
- ・世界は電気自動車の時代に向かっているようですが、ガソリンエンジンの車も当面は残るので、両方に対応するのは大変な事だと思いますが工夫して下さい。
- ・コロナ禍が解除になったことから、地域貢献をさらに積極的に行いアピール度を上げてみてはいかがでしょうか。またメディアにもアピールを多くしてみてはいかがでしょうか。
- ・学生の確保と少ない入学者の退学率の減少が再需要課題かと思います。前者はいままでの活動では改善しないのではないかと言う不安もあります。後者は1オン1的な面談やメンター制度など少ない学生だからできる活動を検討して欲しい。

まとめ

委員の方々のご意見・ご提案を参考として、今年度及び来年度に向けた学校運営の検討を行う。

以上